

2011 年度（平成 23 年度）の温室効果ガス排出量（確定値）＜概要＞

確定値の算定について：「確定値」とは、我が国の温室効果ガスの排出量等の目録として国連気候変動枠組条約事務局に正式に提出した値という意味である。今後、各種統計データの年報値の修正、算定方法の見直し等により、今般とりまとめた「確定値」が変更される場合がある。

※ 排出量等の算定に必要な統計等については、震災によるデータの欠損等の影響がないかを調査し、平成 24 年度温室効果ガス排出量算定方法検討会にて、今回の算定では推計等の補正が必要ないことを確認しています。なお、現時点で震災の影響が明らかでない一部の統計等については、引き続き調査・検討を行う予定です。

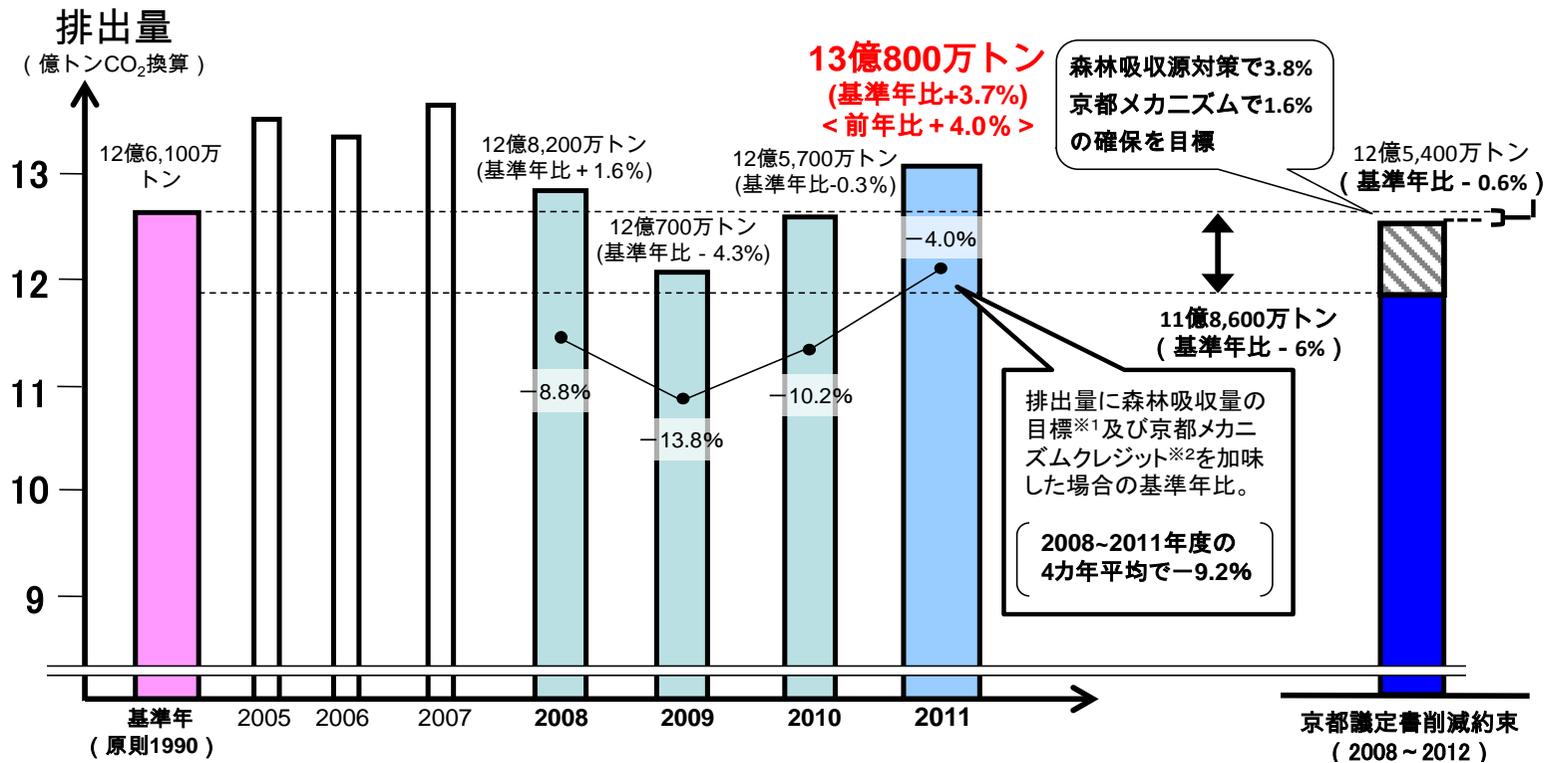
- 2011 年度の日本の温室効果ガスの総排出量は、13 億 800 万トン。
- 京都議定書の規定による基準年（CO₂、CH₄、N₂O は 1990 年度、HFCs、PFCs、SF₆ は 1995 年）の総排出量と比べると、総排出量としては 3.7%（4,640 万トン）の増加となっている。
- 前年度の総排出量と比べると、発電に伴う二酸化炭素排出量が増加したことなどにより、総排出量としては 4.0%（5,030 万トン）増加している。
- なお、京都議定書に基づく吸収源活動の吸収量は、2011 年度は 5,210 万トン（森林吸収源対策 5,100 万トン、都市緑化等 110 万トン）。これは、基準年総排出量の 4.1%に相当する（うち森林吸収源対策による吸収量は 4.0%に相当）。

（参考）

- 前年度と比べて排出量が増加した要因としては、東日本大震災の影響等により製造業の生産量が減少する一方、火力発電の増加によって化石燃料消費量が増加したことなどが挙げられる。

我が国の温室効果ガス排出量

2011年度における我が国の排出量は、基準年比+3.7%、前年度比+4.0%
 森林吸収量の目標※1と京都メカニズムクレジット※2を加味すると、
 京都議定書第一約束期間の4カ年平均（2008～2011年度）で基準年比-9.2%



※1 森林吸収量の目標 京都議定書目標達成計画に掲げる基準年総排出量比約3.8% (4,767万トン/年)

※2 京都メカニズムクレジット

政府取得 平成24年度までの京都メカニズムクレジット取得事業によるクレジットの総契約量(9,752.8万トン)を5か年で割った値
 民間取得 電気事業連合会のクレジット量(「電気事業における環境行動計画(2009年度版～2012年度版)」より)

図1 我が国の温室効果ガス排出量